

定例公安委員会開催概要

1 開催日

令和4(2022)年11月30日

2 開催内容

次の議題について、警察本部から説明・報告がなされ、決裁等が行われた。

■全体会議

【公安委員会から】

冒頭、委員から、

「最近思ったことを2点話したいと思う。1点目は、高齢運転者による交通事故についてである。これまでも高齢運転者の交通事故防止対策については、継続して取り組んでいただいているが、先日、福島県において歩道を歩いていた女性が、97歳の男性が運転する軽乗用車に轢かれて死亡する事故があった。その事故以降、全国において高齢運転者による交通事故が連続して発生しているように感じる。90代の方については、自分の身体の不調等を自覚していると思うが、そのような方が車両を運転して死亡事故を起こし、若い世代の命を奪った場合、被害者の方にきちんと責任を果たせるのか不安を感じる。高齢者は、身体に不具合がなくても認知機能に問題があったり、逆に認知機能に問題がなくても身体に不具合があったりすることもあることを考えると、免許更新に当たっては、運転に支障がないか、細やかに確認する必要があると感じた。高齢運転者による交通事故によって犠牲者を出さないようにするために、免許更新時だけではなく、細やかな点検のようなものがあった方がいいのではないかと感じた。

2点目は、特殊詐欺の被害防止広報についてである。先日、NHKの夕方のニュースで「STOP詐欺被害」というコーナーが放映され、特殊詐欺の被害件数や最近の犯行手口等が説明されており、特殊詐欺の被害防止上、非常に有効でとても良い放送だと感じた。高齢者等がよく見られる夕方のニュースで、時間を取って放映していただくことによって、たとえ短時間であっても、多くの高齢者が特殊詐欺がどのようなものなのか理解を深めたと思うし、被害に遭わないためにどうすべきか家族と対話をすると思う。他の放送局でも被害防止について放映していただければ、被害防止上、より効果的だと思う。以上が最近思ったことである。明日から師走となり、より一層忙しくなる時期に入るが、業務を一つ一つ確実に進めていただきたい。」

旨の発言があった。

【警務部議題】

○ 令和5年岩手県警察運営重点の策定(案)について

警察本部から、「令和5年岩手県警察運営重点の策定案について御審議いただきたい。各部での検討や庶務担当課長等会議、部長会議を経て、案を取りまとめたものであり、「基

本姿勢」については、県民の期待と信頼に応えつつ更に力強く警察活動を推進していく必要があることから、「県民の期待と信頼に応える力強い警察」を継続とした。

「活動重点」は、新規項目2点を追加し、その他の6項目は本年からの継続とし、8項目とした。8項目の設定理由及び変更内容についてであるが、「全国植樹祭に向けた総合対策の推進」については、来年6月の「第73回全国植樹祭」に向け、県警察の総力を結集して取り組み、警衛警備をはじめ各種事故防止対策に万全を期す必要があるため新規項目とした。

「被災者に寄り添う警察活動の推進」については、復興に向けた歩みを続けるためには、安全・安心を実感できる地域社会の実現が不可欠であり、被災者をはじめ県民一人一人に寄り添った警察活動を推進する必要があるため継続とした。

「子ども・女性・高齢者の安全を確保するための活動の推進」については、子ども、女性を対象とした脅威事犯や児童虐待事案の発生は高止まりであるほか、高齢者が被害に遭う割合が高い特殊詐欺被害も後を絶たない現状から、県民の体感治安を高める取組を進める必要があるため継続とした。

「悪質・重要犯罪の徹底検挙」については、凶悪事件が断続的に発生している上、凶悪事件に発展する可能性がある脅威事犯や、ストーカー・配偶者暴力事案等も高止まりで推移していることから、引き続き、あらゆる捜査手法を駆使して事件の徹底検挙に取り組む必要があるため継続とした。

「安全意識を高める目立つ街頭活動及び交通指導取締りの推進」については、高齢者が当事者となる死亡事故の割合が高く、自転車に関係した死亡事故件数も減少には至っていない情勢を踏まえ、高齢運転者・歩行者双方の緊張感や安全意識を高める取組や、悪質・危険な違反の交通指導取締りなどの交通事故抑止活動を推進する必要があるため継続とした。

「官民一体となったテロ対策の推進及び災害等への対処能力の向上」については、大規模イベントにおけるテロの未然防止に万全を期すとともに、近年の自然災害は甚大化傾向で災害等への備えは重要性を増しており、対処能力の向上を図る必要があるため継続とした。

「サイバー空間の安全の確保」については、サイバー空間は国民生活において不可欠なものとなっている一方、サイバー空間をめぐる脅威は極めて深刻な情勢が続いており、サイバー犯罪の捜査、実態解明の高度化等を推進し、実空間と同様に県民の安全・安心を実現させる必要があるため継続とした。

「職員一人一人が輝ける魅力ある職場環境の実現」については、組織の基盤となる職員個々が、仕事へのやりがいを感じ、持てる能力を最大限発揮できる環境を構築するには、ワークライフバランスや女性活躍の推進等に取り組む必要があるため新規項目とした。」旨の説明があり、決裁をした。

《 委員発言 》

「公安委員会の意見を反映させた内容となっており、公安委員会も一緒に取り組んでいこうという気持ちになった。来年は、全国植樹祭が一番大きな行事だと思うが、まずは全国植樹祭を県警察全体で取り組んで成功させることが大事だと思う。今まで取り組んできた活動重点については、停滞させずに半歩でも一歩でも進めること

が大事であり、継続することも必要だと思う。その力になるのは職員一人一人の意識が重要だと思う。本部長は、組織を前進させるための目標を掲げて常に取り組みられているので、その姿勢を前面に出し、全職員が同じ方向を向いて、県民のために取り組んでいただきたい。」

○ 令和5年の各部門における目標数値の策定(案)について

(1) 警務部

警察本部から、「令和5年の各部門における目標数値の策定案について報告する。策定方針については、本年の目標数値の進捗状況や社会情勢の変化を踏まえ、各部門が取り組むべき重点課題や懸案事項について、効果測定に適した項目を中長期的な視点をもって策定したものである。目標数値の設定数は、全体で19項目であり、本年と比較し5項目削減した。警務部門の目標数値については、「職員1人当たりの平均年次休暇取得日数」の「警察本部平均」と「警察署平均」、「各警察署における実戦的総合訓練」にかかる「実施回数」と「若手警察官の訓練実施率」の計4項目とした。」旨の報告があった。

《 委員発言 》

「休暇の取得については、取得したいときに取得できるように、より充実させてほしい。一方で、今の時期は仕事に専念したいという職員もいると思うので、そのような職員には、休暇取得よりも仕事を優先させるよう配慮するといった柔軟な発想も必要だと思う。その結果として、取得平均が上がっていけばいいと思うし、個々の職員の実態を踏まえて幹部が気を配る必要があると思う。」

→本部発言

「数字はあくまでも目標として掲げるが、それぞれの職員の事情に応じて、必要なときに休暇を取れるようにすることが重要であるし、職員が計画的に休暇を取得するためには幹部の配慮も必要であり、その点を意識して進めていく。」

(2) 生活安全部

警察本部から、「生活安全部門の目標数値は、「全刑法犯認知件数の抑止目標」「特殊詐欺被害に占める高齢者の割合」「住宅対象侵入窃盗及び乗物盗の無施錠での被害件数の抑止目標」「子ども・女性に対する脅威事犯の行為者特定率」「サイバーセキュリティチャレンジ」の5項目である。」旨の報告があった。

《 委員発言 》

「全刑法犯認知件数の抑止という表現については、一般の方々には分かりにくいように感じる。刑法犯の被害件数の状況を確認した上で、抑止目標件数を設定するのであれば、被害件数を減らすという積極的な意味合いがもたらされると思うので、被害件数の抑止という表現の方が分かりやすいと感じる。」

→本部発言

「表現をどのようにするか検討させていただきたい。」

《 委員質疑 》

「来年、「乗物盗の無施錠での被害件数の抑止目標」を追加したのは、どのような

理由からか。」

→本部説明

「今年は、乗物盗が3割増加しているので追加したものである。」

《 委員質疑 》

「サイバーセキュリティチャレンジについてであるが、モデル校に指定した学校に対して、どのような取組を行うのか。」

→本部説明

「これまでも、防犯教室とか非行防止教室において、サイバー犯罪被害防止についても伝えてきたが、今回想定しているのは、サイバー犯罪被害防止に重点をおいた教室を何回かに分けて実施することである。また、教養資料については、警察本部のサイバー犯罪対策課において充実した内容の資料を作成し、各署にその資料に沿って教室を行ってもらうことを想定している。」

《 委員発言 》

「モデル校に指定された学校の子供たちには、モデル校に指定されたというプライドを持ってもらい、自分たちは正しい使い方をするんだと思わせるようにしてほしい。教養を実施した後、数か月後でもいいので、アンケートを実施し、意識が変化したとか、危険を感じたことがあるとか、周りの人たちに広げているとか、態度の変容等を確認してもいいのではないかと思う。実質的にとても良い取組だと思うので、是非進めていただきたい。」

一方で、今は、小学生もタブレットを導入している時代であり、サイバー犯罪被害防止については、小学生の子供たちから教えていくことも大事なのではないかと思う。」

(3) 刑事部

警察本部から、「刑事部門の目標数値は、「重要犯罪の検挙率」「組織犯罪対象事犯の検挙人員数」の2項目である。」旨の報告があった。

《 委員質疑 》

「薬物で検挙されている人は増えているようだが、年齢層も様々なのか。」

→本部説明

「インターネットを利用して、誰でも自由に手に入れることができるような実態があるため、年齢は様々である。コロナ禍が落ち着いてくれば、海外との行き来も増え、空港等での水際対策がより厳しくなると思うので、関係機関と連携して取締りを行っていきたい。」

(4) 交通部

警察本部から、「交通部門の目標数値は、「交通事故死者数の抑止」「ゾーン30プラスの整備数」「飲酒運転にかかる交通事故件数」「交通事故に関わる行政処分所要日数」の4項目である。」旨の報告があった。

《 委員質疑 》

「飲酒運転にかかる全事故件数についての目標が定められているが、飲酒運転での

事故を減らすということは飲酒運転させないようにパトロールや検問等をする事だと思っているので、飲酒運転の違反件数の数値目標の方がいいと感じる。また、「飲酒運転」「高速道路のスピード違反」「赤信号無視」のようなものが、三つの大きな悪質な違反だと思っているので、飲酒運転に限らず三大重大違反による事故件数を減らすでもいいと感じる。どのような理由から目標数値を飲酒運転にかかる事故件数としたのか。」

→本部説明

「飲酒運転がなくなってくると事故も減るはずだし、事故件数は警察では操作できない部分でもある。飲酒運転による事故については、死亡事故率が一般の事故に比べて、9倍から11倍位高く、非常に危険な違反である。よって、飲酒運転を無くすことによって事故で亡くなる方をなくすという考えで飲酒運転を特出しにし、「飲酒運転にかかる事故件数」を目標として設定している。」

《 委員質疑 》

「ゾーン30プラスを設定する際には、どのようなことに留意しているのか。また、ゾーン30プラスの目標設定値について、最低でも一つ、可能であれば複数個所を設置していくということなのか。」

→本部説明

「住民の方々の御理解をいただくことが一番大事になってくるので、その点に留意している。目標設定値については、最低でも一つ、可能であれば、複数個所設置していくということである。」

《 委員発言 》

「行政処分の所要日数については、大事なことは放置しないことだと思う。できるだけ早く処理して、違反を繰り返させないということが大事だと思うので、とにかく早く処理をするという意識だけは忘れないでほしい。」

(5) 警備部

警察本部から、「警備部門の目標数値は、本部及び各警察署それぞれの目標として「警護要員の技術向上及び育成に向けた警護訓練実施回数」及び「非常参集訓練、警備本部設置訓練、本部(警察署)機能移転訓練、装備資機材活用習熟訓練、関係機関との連携訓練の実施回数」である。」旨の報告があった。

《 委員発言 》

「全国植樹祭の前に定期人事異動があるので、人事異動によって意思疎通に支障が生じるおそれがあると思う。その点も踏まえて訓練計画等を作成していただきたい。」

■個別会議

○ 交通規制課

第194回岩手県都市計画審議会への出席結果の説明、決裁

○ 生活安全企画課

猟銃所持者2名による銃砲刀剣類所持等取締法違反に対する行政処分報告

○ **組織犯罪対策課**

機関誌への投稿についての説明、決裁

○ **監察課**

監察課業務報告

○ **運転免許課**

免許取消等処分関係に係る意見の聴取結果等の説明、決裁

○ **総務課**

公安委員会宛て苦情の処理及び受理の説明、決裁

公安委員会宛て文書の受理・処理の説明、決裁